

お天気が心配でしたが、当日は風が気持ちよく、雨も降らず、お花があちこちに咲き誇り、最高のトレッキングになりました。1週間前に下見に来ましたが、林道は鍵がかかり行くことができませんでした。工事の方にお聞きすると、週末(30日)に、山開きあるのでとのことでした。インターネットにて確認し、電話でも確認しました。この山は、見回りのボランティアグループの方々などがおられ、コースの整備など、素早く対応してくださることを経験上知っていて、いつも感謝・感謝です。

今日は、山開きの式典がありました。今回は、キンコウカのお花に合わせて日程を決めたのですが、ニッコウキスゲ・ササユリなどたくさんのお花に出会いました。「来年も、今頃にしたら良いね・・・」と話題になりました。また、夜叉ヶ池に丁度12:00に着いたのですが、たくさんの人で、夜叉ヶ池山まで行き、昼食をしました。山容も他とは違う趣があり、キンコウカ・ニッコウキスゲ・ギボシなどのお花が群生し咲き誇っていました。予想以上の自然からのプレゼントに大満足。超満足。ルンルン・・・。

◆歴史・伝説 夜叉ヶ池の伝説[編集] 安八郡の伝説[編集]

[雨乞い](#)のための生贄として龍神に嫁ぐ話が最も一般的で、[越前](#)・[美濃](#)・[近江](#)の3国に分布しているが、固有名詞の具体性などから、そのルーツは美濃国([岐阜県](#))[安八郡](#)であろう^[13]。

[817年](#)([弘仁](#)8年)、この年の美濃国平野庄(現岐阜県安八郡[神戸町](#))は大旱魃に見舞われ、あらゆる作物は枯れる寸前であった。ある日、[郡司](#)の安八太夫安次は、草むらの中に小さな蛇を見つけ、ため息まじりで、「もしそなたが雨を降らせるのなら、私の大切な娘を与えよう」と語った。

するとその夜、安次の夢枕に昼間の小蛇が現れ、「私は[揖斐川](#)上流に住む龍神だ。その願いをかなえよう。」と語った。すると、たちまちのうちに雨雲がかかって大雨が降り、作物は生き返り村は救われた

翌日、約束どおり娘をもらう為、小蛇(龍神)は若者の姿に変えて安次の前に現れた。安次には3人の娘がいたのだが、安次が娘たちに事情を話すと、一番心がやさしい次女(三女の説もある)が、「村人を救っていただいたからには、喜んでいきます。」と答えた。驚いた安次は、「何か必要な物はないのか。」と問うと、娘は、「今、織りかけの麻布がありますから、これを嫁入り道具にいたします。」と答えた。

こうして娘は龍神の元へ嫁ぐことになり、麻布で身をまとい、若者(龍神)と共に[揖斐川](#)の上流へ向かっていった。

数日後、心配した安次は、娘に会う為に揖斐川上流へ向かった。やがて、揖斐川上流のさらに山奥の池に龍神が住むという話を聞き、その池にたどり着いた。安次は池に向かい、「我が娘よ、今一度父に姿を見せておくれ。」と叫んだ。すると、静かだった池の水面が波立ち、巨大な龍が現れた。龍は、「父上、これがあなたの娘の姿です。もうこの姿になったには人の前に現れる事はできません。」と告げ、池の中に消えていった。



池の畔にあった[奥宮夜叉龍神社](#)

◆トレッキングの様子



山開きの式典が終わった



沢沿いに行く



眺望



綺麗な樹林を行く



沢も幾つか渡る



ブナ原生林①



②



ブナの巨木



幽玄の滝



昇龍の滝を撮る



お花畑を楽しみながら



夜叉ヶ池



夜叉ヶ池山へ ハート型の夜叉ヶ池



下山①



下山②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩

◆自然観察



ササユリ

ササユリがたくさん咲いていました。蕾もたくさんありました。大喜び・・・。



トリアシショウマ①



②



③



ネジキ



ヤマアジサイ



ヤマツツジ



ヤマボウシ



タニウツギ



ギボシ



ニッコウキスゲ



バイケイソウ



ミヤマシグレ



ヤグルマソウ



キンコウカ



モウセンゴケ①



②



ミヤマカラマツ



お花畑



コバイケイソウ



シモツケソウ



アザミ



イボタノキ



イブキトラノオ



お花畑



お花畑



サワフタギ



ミズキ



トウダイグサ



?



シシウド



ギンリョウソウ



お花畑